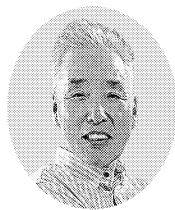


07日付 山城A朝刊通し  
2020年02月03日15時22分02秒  
PDFゲラ出力 箱組

◎E・新随想箱  
ID=CC12070900000472  
校正回数=65 79倍 0× 27行 0

# 随想やましろ

医療従事者対象の緩和ケア研修会を、12月の日曜日に受けてきました。緩和ケアとは「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族のQOL(クオリティ・オブ・ライフ、生活の質)を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応すること」で、



門阪庄三

苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである」と説明されています。

少しわかりにくいかもしれませんが、特に心理社会的・スピリチュアルな問題とは何を指すのかは説明が要ります。がん

過で現れる痛みや辛さだけではなく、経済的な問題、家族の将来、自分の仕事などがストレスになります。だから医療従事者は医学的な側面に限らず、患者さんの様々な場面で幅広い対応をしなければいけない。これを緩和ケアとして勉強

## 暮らしの中の緩和ケア

しましようにいうことで

さて、研修です。会場は地域がん診療病院の指定を受けた京都岡本記念病院です。研修は国のがん対策推進基本計画に基づいたものでなかなか厳しいものでした。まず研修当日の前にeラーニングを受けます。このeラーニングは最近よく経験するもので、自宅のパソコンかスマホで、自主学習の後に画面から出題される試験を受けるのです。自宅学習とその試験に合格したというお墨付きがないと研修参加ができません。

当日の会場には、顔なじみの同病院の先生や看護師さんだけでなく数人の他府県の専門医が待機されていました。専門医の講義も丁寧でした

が、他の研修と違ったのは実習の多さです。実習は「この患者さんの場合なら皆さんどうしますか」という形でグループ・ディスカッションと、もう一つは「あなたが今患者さんだったらどうしますか」とロールプレイが繰り返されたことです。

肺がんの患者役の医師が医師役の看護師さんからがんの告知を受ける設定では、互いの言葉と感情が行きかかって2人とも涙声になる場面となりました。

社会が変わる、医療が変わる。どんな医療を受けるかの選択も本人の希望や意思が尊重される時代です。このような研修が必要な時代になってきたということです。(かどきか内科クリニク)